



エーバーバッハへ ようこそ！

古城街道の向こう、ネッカー川沿いに、シュタウフェンの町エーバーバッハがあります。ネッカー川から中世の家並みを見せるこの町は、現存する4つの城壁塔のうちの2つに囲まれています。この町が建設されたのは、ハインリヒ7世がヴォルムスの司教よりエーバーバッハ城を封土として受け取った1227年だと考えられています。エーバーバッハはドイツ帝国直属都市になり、その後、封建家臣が幾度も替わりました。伝統と習俗が現代性ととも生きていくこの町には、歴史的な建物、絵画的な旧市街や分厚い城壁が特別な雰囲気を作っています。趣のある絵の描かれた上品な市民の家々と、魅力たっぷりの木組み建築に彩られた旧市街を体験してみたいかでしょうか。私たちの故郷、エーバーバッハの町の美しさ、多様な姿を見せる自然とハイキングコースを満喫してください。

お問い合わせ、各種ご予約は下記へご連絡ください。



i Kultur-Tourismus-Stadtinformation
Rathaus Eberbach
69412 Eberbach • Leopoldsplatz 1

Tel.: +49 (0)6271 87-242
Fax: +49 (0)6271 87-254
Mail: tourismus@eberbach.de
www.eberbach.de



美しいネッカー川沿いの レジャーと休息のひととき

- ネッカー川に臨む屋外プールと安らぎの芝生
- サウナ付き屋内プールと蒸し風呂
- 屋外/屋内テニスコートを完備したスポーツセンター
- 釣り、乗馬、ハイキング
- サイクリング
- ハイデルベルクへのクルージング
- カヌーツアー、スポーツヨットの停泊地
- ノルディックウォーキング
- ウェルネス散歩コース
- リハビリセンターとフィットネスセンター
- 全シーズン対応のポッチャ場 (ポッチャとは、ドイツで親しまれる球技)
- 町から程近いバーベキュー場

ガイドツアーとインフォメーション エーバーバッハを体験してください

- 市役所に併設の観光案内所
- 旧市街を巡る様々な見物ルート
- 馬車ツアー
- エコ散歩
- 菜草園のガイド付ツアー
- ガイド付ハイキング
- 中世の夜警に扮したガイドが案内するナイトツアー
- エーバーバッハの昔ながらの職人技を見学
- ズグラッフィートの絵画(掻き落とし装飾技法)

ハイキング 簡単な計画

エーバーバッハとその周辺を巡る素晴らしいハイキング・ツアーを、ご自身で計画してみてください。または、町が計画したツアーを楽しむこともできます。印刷版とGPS版がありますので、詳しくはホームページをご覧ください www.eberbach.de にアクセスしていただき、「Erleben」をクリックしてください。

美しい自然を 体感する

- 全長150キロメートルのハイキングコース
- 森番がガイドする遠足コース
- 世界の植物に出会える樹木園
- 自然の中の散歩道
- 生物保全公園、鳥類公園
- ネッカー川沿いのキャンプ場
- ユースキャンプ場「イッターホーフ」
- 川の歴史を辿る散歩コース
- ネッカー登山道」ハイデルベルグからバードヴィッフェンへ渡る全長126.4キロメートル、高さ3,127メートルのハイキングコース

心行くまで堪能する 名所見物

- 様々な展示を催す町の博物館
- 自然公園インフォセンター
- 昔ながらの職人技を間近に見学できる、ワイン木樽製造工房
- プリキ人形展示室を備えたハスペル塔
- ブルファー塔と、町の時計職人フランツヤコブブラウン(1766年)の手による時計塔
- プロテスタント教会とカトリック教会
- 現在まで良く保存された4つの塔(うち2つは昇って見学可能)
- シュタウファー城跡
- ユダヤ教会広場と慰霊記念碑

目と耳を豊かにする 文化

- コンサート、劇場、野外イベント、映画館
- 子供のためのイベント
- エーベルバッハ芸術展示場
- 変化する美術展覧会
- 一年を通して開催される町ホールでの各種イベント

様々な市場と催し物 伝統との楽しい触れ合い

- 春の風物詩 エーバーバッハのラムソン市 (ラムソンはドイツ料理に重要な植物)
- ライオンズクラブのイースター市
- もうひとつの春の風物詩 旧市街フェスティバル
- 6月の生き生きとしたネッカー川
- カッコウ市 8月最後の週に催される歳の市
- エーベルバッハリンゴ市 10月第3日曜日に開催
- ライオンズクラブが10月に催す創作市
- クリスマスマーケット こぢんまりとした規模で、とても美しい

ホテル/ゲストハウス/ショッピング エーベルバッハのグルメ

- 30を越えるレストラン テラス席の用意も
- 4つのホテル(全部で174つのベッド)
- ゲストハウスと休暇用アパート
- 数多くのカフェ、バー、ドイツ居酒屋
- 生き生きと営業する商店

近場で 気軽に立ち寄れる

- ツヴィンゲンベルガー城音楽祭
- ローベンフェルト、ムダウ、ヘッツバッハのゴルフ場
- ロッテンベルグとローバッハでのグライダー飛行
- ヒルシュホルン城
- ハイデルベルグ、マンハイム、ハイルブロン
- ネッカーゲミュンドのクライミングパーク
- ミヒェルバッハ・クライタッハ森のソリ用コースとドライジーネ用レーン



美しい町並み
美しい自然を体験したい!
マップ付き



① ハスペル塔とパートハウス ブリキ人形の博物館と旧浴場

どっしりとしたハスペル塔は14世紀に建設されました。巻き上げ機（ハスペル）で階下の真っ暗な牢に囚人を降ろしたことからこの名で呼ばれています。今日、塔内の五つの階はブリキ人形の展示室となっています。リンデン広場のバードハウスの丸



② プルファー塔とタールハイムシェ・ハウス 歴史的至宝

広げたマントのように城壁を守っているプルファー塔（別名マンテル塔、日本語では「外套塔」）は、最初は13世紀にエーバーバッハの城壁の誕生とともに建築されたといわれています。その後この塔は、さまざまな時代に改築が繰り返されてきました。プルファー塔と塔に続く城壁の内側に沿って旧巡視路があります。夏季には最上階の時計室を見学できます。ここでは、その地方で有名な時計職人のフランツ・ヤーコップ・ブラウンが作製した時計を見ることが出来ます。隣のタールハイムシェ・ハウスは町で最古の石造りの館で、もともとは貴族の邸宅でした。外壁のほとんどは15世紀初頭のもので、かつてはプファルツ選帝侯の酒蔵であり、後にライニンゲン侯の狩猟のための離宮となり、その後裁判所、市役所として使用されました。現在はネッカータール＝オーデンヴァルト自然公園のインフォメーションセンターとなっています。1818～1819年のアーモアバッハ離宮の建替の間、エドワード・オーガスタス（ケント公）とその妻であるヴィクトリア・オブ・サクス＝コバーグ＝ザールフェールド（ライニンゲンの公爵夫人）がタールハイムシェ・ハウスに滞在しました。彼らは、イギリスのヴィクトリア女王（1819～1901）の両親でした。

③ アルター・マルクト 懐かしい景色

交通量の少ない閑静な旧市街の中心にある広場、アルター・マルクトで一際目を引くのは、ホテル・カルプフェンです。1934年にスグラッフィート（掻き落とし装飾技法）で描かれたファサードの壁画には、町の歴史上重要な人物や出来事の数々が描かれています。斜め向かいには郷土博物館で、1824年、当時流行のいわゆるヴァインブレンナー・スタイルで建てられた旧市庁舎です。



天井にある旧浴場は、中世の社交場である浴場が、最も良く保存されたもののひとつです。

お勧め
旧市街内の青い看板の順にご観光ください。



④ ホーフ 歴史的木組み建築

ローマ時代後期のベッテンドルフセス門の両側に、町最古の美しい木組みの家が2軒並んでいます。こちらは、初め旧皇帝の居館、後に貴族の邸宅となったホーフという家と、その向かい側にあるベッテンドルフセス・ハウスです。こちらは、「兵舎」とも呼ばれています。どちらも1500年ごろに今の姿になりました。すぐそばに、ワイン用木樫の昔ながらの製造過程を見学できる工房（「キューフェライ・ムゼウム」）があります。

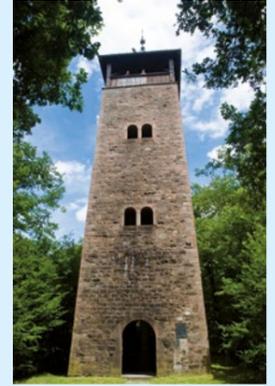
⑤ ローゼン塔 魔除けの城壁

町の北隅に建つ丸いローゼン塔は、城壁四隅の塔の中で最古のものです。城壁とともに13世紀に築かれました。もともとは、近くの馬の水飼い場に困んで、「ロッセンブルナー塔」（馬水飼いの塔）と呼ばれていました。入口の上部には、魔除けの意味を込めたとと思われる、横たわる人物像が砂岩に刻み込まれています。



⑥ オアスベルグ塔 立派な景色

地質学的にまだ若いオアスベルグ山は、ネッカー川の発達に伴って生まれました。かつてこの川は、現在のこの山の特徴的な頂きの周りを蛇行して流れ、蛇行部分が分断され、陸地化した海拔229メートルのところにこの山が生まれました。同名の塔は1970年に建てられ、17.50メートルの高さです。13世紀頃のオアスベルグ山頂には、町の防衛施設があったようですが、今日ではその環状の堀のみが認められます。現在、オアスベルグ塔があるところには、おそらく当時これより更に高い塔があったと思われる。オアスベルグ散歩道は、町から近く簡単に歩くことのできるため、多くの人を惹きつけます。駅から5分歩けば、すぐに森の中です。塔を昇って外を見渡せば、エーバーバッハの町並みとネッカー渓谷の見事な眺めがあなたを待っています。



⑦ ブラウアー・フト塔 悪人の塔

この小さな隅の塔は、町の四つの塔の中でもっとも小さく新しく、優美な姿を持つ塔です。屋根が帽子のような形で、青黒いスレート（粘板岩）で作られたため、ブラウアー・フト（青い帽子）という名前になりました。塔の下にはかつて、町の「ベッツェンカマー」（牢屋）がありました。

